

「流水小学校の湯田棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

さつま町立流水小学校

2 学年・人数

4年生から6年生・中学生（計24人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成28年9月～10月 流水小学校の体育館
平成28年10月7日（金） 発表前の練習（湯田八幡神社境内）

(2) 発表の日時・場所

平成28年10月9日（日） 湯田八幡神社境内
同 宮之城温泉街「旅館玉ノ湯」前の道路
同 養護老人ホーム「ほのぼの苑」駐車場

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

湯田棒踊り（ゆだぼうおどり）

(2) 由来

始まりは、豊臣秀吉の朝鮮出兵時に武士団の士気を高めるために舞ったものとされている。

その後は、五穀豊穰と地域の発展を願い伝承されてきた。（さつま町湯田地区は、名湯「宮之城温泉街」があり湯治客も多い。また、地区内を流れる川内川の豊富な水の恩恵を受けた稲作も盛んであるため、10月の湯田八幡神社大祭で、大人の踊る「湯田秋津島舞」と共に奉納されてきた。）

(3) 構成等

歌者（保存会指導者） 1人

幟持ち（保護者） 6人

① 踊り手は全員で24人（小学生4年生・5年生・6年生・中学生）

② 縦2列で入場

③ 2人組で踊る

④ 3人組で踊る

⑤ 4人組で踊る

⑥ 縦2列で退場

5 保存会や地域との連携の具体

湯田棒踊り保存会の会長は、さつま町立流水小学校のPTA会長が務めており、活動そのものは、PTAが主体となって支援している。

流水小学校は全校児童36人（平成28年度）P戸数28戸の小規模校であるため、全ての保護者が支援者となって保存会の活動を行っている。

また、男性保護者の中には、「湯田秋津島舞」の踊り手を務めている方もおり、地域全体として踊りの継承に関する意識が高い。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

児童・生徒が文化財の伝承を行う上で、大きな課題となるのが練習時間の確保である。本校は、平成25年度まで秋季大運動会でも棒踊りの発表を行っていた。そのため、2学期開始後は、ほぼ毎日、夜7時から8時過ぎまでの練習が行われてきた。

しかし、児童生徒の家庭学習の時間を確保し、保護者の負担、練習に付きそう教職員の負担を軽減するため、運動会での発表を取り止め、運動会終了後から練習を開始するようにしている。また、映像を使って練習を行うようにもしており、地域の指導者がいなくても児童の主体的な練習ができるようにしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



湯田八幡神社秋の大祭における奉納



宮之城温泉街路上における披露

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【6年生児童】

4年生から参加して今年で3回目、上手に踊れるようになった。友達もうまく棒を合わせることができた。中学生になっても参加したい。

【教職員】

さつま町の学校再編計画により、平成33年3月に閉校を迎える小学校であるが、児童生徒が、地域の伝統芸能を引き継ぎ、毎年一生懸命に取り組んでいる。当日は、宮之城温泉街や養護老人ホームでの披露を通して、地域の方々からも盛んな声援をいただいている。そのため、発表当日に向けて、子供たちの意欲が高まりつつある。

【保存会から】

現在、地域の指導者が1人のため、練習計画を立てるのに難しさがある。しかし、学校の時間割や放課後の時間等をうまく組み合わせて練習時間を確保している。

今後は、複数の指導者を依頼する方向で検討していきたい。また、指導体制については地域とも十分論議していきたい。

【地域の方から】

児童生徒が、元気よく一生懸命踊る姿に毎年のことながら感動しています。10月の湯田八幡神社の秋の大祭が楽しみでなりません。児童生徒の発表の後は、大人による「湯田秋津島舞」の奉納もあり、湯田区や宮之城温泉街の盛り上がりには欠かせない行事だと思います。平成33年3月に流水小学校が閉校することになっても、この行事を継続して欲しいと願います。